

令和3年度 第4回学校協議会 要点録

令和4年2月16日(水) 19:00~20:15

於：味生小学校 会議室

記録 清家 伸次(事務局：本校教頭)

校長挨拶：学校も、今年度を振り返り、来年度に向けての大事な時期を迎えている。学校協議会でも、今年度の学校経営について遠慮なくご意見をお聞かせいただきたい。

学校の様子：(教頭より)

新型コロナウイルスの感染は、学校の中であってもなかなか防ぐことはできない。今は感染対策をしっかりと行いながら、日々の授業を行っている状況。各学級に数人の感染者や濃厚接触者が出ても、学級閉鎖を行わず、一人一台のiPadを使い、オンラインで授業を受けるという形で、児童の学びを止めない工夫を行っている。行事も例年通りに行うことも難しい現状だが、できる事を考えながら行っていける事を探していく。

1. 令和4年度学校経営計画について(まだ、案の状態)

→3本の取組みの柱を中心に学校経営を進める

① 「子どもの笑顔があふれ、いきいきと学ぶ姿のある学校」

- ・学校での学びを広げていきたい。
- ・学力向上

授業研究・研究の方向性は同じで、深めていく来年度にしたい。

算数の基礎・基本の定着を図りたい。算数は研究の中心ではないが、課題がどこにあり、中学校へのつながりも視野に入れ、対策を考えていきたい。

- ・教職員の人権感覚を向上させ、児童が安心して学ぶことができる集団づくり、人権感覚を養う。
- ・支援学級の改革

つけたい力は何なのかを考えた授業改善

- ・問題行動は落ち着き、件数も減少してきている。

組織対応の成果が表れていると考える。学びにかかる時間を増やすことができた。

- ・取組みの成果、所属感の醸成

② 「チームで歩む学校」

- ・教職員は仲良し集団ではない。児童の学びをきちんと保証できる学校、チームを作る。

人権教育の質の向上。人権感覚の醸成のため、教職員研修を行い、学級経営・児童理解をさらに進めたい。

③ 「保護者・地域とともに子どもを育てる学校」

- ・児童と地域との接点を探しながら、できる事を探していきたい。
- ・PTAとも共同で児童のためにできる事も組み立てていきたい。
- ・地域とのつながりのある活動の推進

公民館への作品の展示、ダイキン工業との連携など、全学年での地域との連携

- ・地域の方から大事に思われている事を意識させたい

たくさんのご意見とともに、できることは何でもするというお声かけを大切に。

学校はまだまだ敷居が高い、との声をいただくことも学校の改善点だと考える。

・セーフティパトロールとの接点、地区懇談会も持てずにいる。

2.意見交換

委員：PTAの現状は、どうなっているの？無くなったとか、入会しなくていいとかいろいろ聞くので。

校長：任意の団体であることで、入会の同意を得ることが必要。

委員：昔と一緒にしてはいけませんが、自治会もそうだが、子どもを学校に通わせている以上、強制であった。

入学式や卒業式で、プレゼントが会員だけになることは嫌だなあと感じる。

あるなら入る、ないならやめるということになると思うとすごく違和感がある。

委員：昔から任意だった。だが、保護者と学校が協力して、児童のために何かするのが当たり前の時代だった。しかし、今は、強制じゃないでしょう？会費もあるでしょう？という意見が出てきている。

時代の多様化と結びついているのではないか。

PTAにはとてもお世話になったので、大切だし、助けてもらえることもあった。

委員：学校と保護者が協力して、会費も出して、役員もするのが当たり前やと思ってきた。

今は、両親とも働いている人が多い。何でも楽がいいと思ってしまう。

校長：半分くらいのご家庭しか加入に同意されていない。

損得ではなく、やってよかったと思って欲しい。

委員：地域の自治会もそう。メリットは何？何がいい事があるの？となってきている。

災害や困った時に助かるという説明をしても、災害などはみんな同じ条件だから…となる。

会長：四中でもそう。

地区懇談会も年末のパトロールもなくなってきている。

一回なくすと、次は大きなエネルギーがいる。

地区体育祭もそう。部活の試合があれば別だが、練習なら休みにして地区体育祭に参加しようという指導があり、みんなで地域を盛り上げようとしてきたが、今はなくなっている。

世の中がそういう流れになってきている。学校が頑張っても地域に訴えてきても、なかなか地域を変えることはできない。

委員：PTAは、全国的になくなりつつある。

委員：見返りがあるからやるではない。

委員：会費払っている分、返ってくるという意識が強い。

どこかの団体に所属していなくても、生きていけるという意識が強い。

習い事が増え、学校以外でのつながりが多くなっている。学校が基盤じゃなくなっている。

でも、時代で片付けないで欲しい。そういう風潮にならないで欲しい。

一度、後退したものは復活できない。ファッションとは違う。

委員：目的意識が明確にならないと進まない。

校長には、夢を語って欲しい。地域のすばらしさを語って欲しい。

委員：いろいろ言われるが、現状はそう。

子どもは遊びながら育つもの。地域の中を走り回って遊ぶもの。

その時、守るのは地域の力。危ないことを注意していくことも地域の役目。

お互いの顔を知ることによって注意ができる、そういうつながりが大事。

委員：こういう場所(PTAや自治会も含めて)に来ることで地域のことわかるし、意識も変わる。

なるべくたくさんこういう経験をして欲しい。

他校の事を情報交換しながら考えたらいいと思う。

同意を求める文書の書き方も工夫が必要。発信の仕方も大切。

会長：この地域のこども会はすべてなくなった。

役をするのが嫌というのが理由

委員：行事があると、有無を言わずに参加しないといけない、それが嫌なのだと思う。

委員：こども会に入っている、何もしてくれない

行事もなくなってきた。人数が減ると余計に何もできなくなる

PTAは、是非、学校としても新入生の保護者にアピールできるものを示して欲しい

委員：結びつきが大事、子どものためにということをもっと地域や保護者へ、教職員へも発信して欲しい。

多くの人に広げて行って欲しい。

校長：地域と児童の結びつきという接点ということを感じたことがあった。

地域の方からのご意見であった。

犬の散歩の時に、児童が驚かした。注意したが、態度が悪かった。

本校出身の方で、地域の事を良くおっしゃらなかったことがとても悲しい。

保護者と地域、地域同士のつながりが増えてくるようになれば、PTAにも自治会にも児童の居場所としてもプラスになる。

委員：新型コロナウイルス流行の中、何もしてあげることができない。

何かしたいと考えるができない。特にこの2年間にはできない。こども会は無くなったが、地域の子どもたちを呼びたい。でも、それもできないかもしれない。

昔は、学校の運動会と地域の運動会を一緒にしていた。もう一度、一緒にすることは難しいのだろうと思うが、そういうつながりも大事。実行可能かどうかはあるが、そういうつながりが大事とみんな考えていることが大事。

委員：すべての児童の学びを育む特別支援教育について関連して、ダイキン工業では、サンライズ摂津で障がい者雇用という取り組みがある。

委員：200人を超える方が働いている。会社の力というより、自分たちの力で働き、大きくしている。誇りを持って働いている。

様々な負のスパイラルを逆向きにしていくことは難しい。だからこそ、今できる事をして行って欲しい。過去のことをどうにかしようという考えではなく、未来にできる事を考えて欲しい。

一緒に考えていくための新たな考えを生み出すしかない。今ある価値観を押し付けるような形は難しい。

委員：自立を意識する、目標としているということは様々なことに共通している。

味生小学校では支援学級は何学級あるか、ご存知ですか？自閉・情緒学級3、知的1です。

市内の支援学級の多い学校では、11学級もある。

児童数は減ってきているのに、支援学級に入級する児童は増えている。個別の教育、教育の考え方が変化してきている。支援学級の教育は通常学級の教育にもつながるものである。

校長：一人ひとりの児童の能力をしっかり伸ばしていきたい。

その子にとって必要な支援、学習とは何なのかをしっかりと考え、社会に出たときにやっていける力をつけることに焦点を当てて考えている。

委員：支援学級の児童は通常学級の中に入るのか？

分けることが差別という意識がある。

分けてしまうことが変な意識、無意識にしてしまうことにつながるのではないか。

委員：特別な教育課程は、特別視することにつながるわけではない。

その子にとって、今、何が必要なのかを見極めながら、その子にとって必要な支援を行うことが大事。

3. この1年を振り返って一言ずつ

委員：地域とともに発展する、子どもたちのためにという意識が大事と思いつつ、活動を続けていきたい。

委員：地域に属する企業として、会社の理念として、地域とともに発展するということ、会社だけが発展するのではなく、一緒に発展できるようにともに歩んでいきたい。

委員：学校協議会の意味が分かった。

民生委員として、子どもたちとのつながりを考え、出来る事を考え、活動していきたい。

委員：教職員には、人を育てることの尊さと自信・誇りを持って欲しい。また、そのことをいつまでも忘れないでいて欲しい。

委員：子どもが地域で遊んでいる姿が一番平和。子どもがいるから過疎ではない。

通学路になったこともあり、夕方は道に出て、少しでもと思い、手を振っている。

昨日、子どもが飛び出してきた。一緒にいた子が頭を下げてきた。今日、また会った時に頭を下げてきた。つながりがあればこそそのことで、やっぱり大事にしていきたい。

委員：地域の子を見ればその地域がわかる。しかし、その見えないものが財産。いろいろなつながりを持つことができた一年だった。

会長：一年間、ありがとうございました。

校長・教頭はじめ先生方を応援し、「地域の子は地域で育てる」をキャッチフレーズに今後も頑張っていきたい。

教頭：発信とつながりが大事だと感じた一年だった。発信をしっかりとすることが、つながりを作るという意識の醸成を改めて進めていきたい。

校長：時間を区切ってと考えるのですが、多くのご意見をいただき、時間が長くなってしまい申し訳なく思っている。しかし、それほど充実した時間であり、来年度の活動に生かすことにつながる時間になっていると感じている。

これからも地域の意見を聞かせていただき、子どもたちのために努力したい。今後ともよろしく願います。感謝でいっぱいである。